

IV-3

骨髄腫患者における Survivin の発現と予後因子

八田善弘¹、相澤 信²、入山規良¹、竹井和大¹、上野川久美¹、齋木 実¹、石塚 光¹、
蔵 良政¹、山崎哲男¹、伊藤武善¹、澤田海彦¹、竹内 仁¹、

日本大学血液膠原病内科¹、解剖学²

【目的】Survivin は caspase に結合し、その活性を阻害することで抗アポトーシス作用を発揮する。さらに Survivin は白血病などの腫瘍で発現していることが知られており、その発現は悪性度、予後を反映するといわれている。本研究では Survivin の発現と骨髄腫の予後を検討した。【方法】対象は 28 例の骨髄腫患者（観察期間 0.5-56.5 ヶ月、中央値 8.5 ヶ月）。初診時の骨髄穿刺検体をホルマリン固定し、Survivin の免疫染色を施行した。検体中の形質細胞は全例で有核細胞の 20% 以上であった。形質細胞の Survivin 発現と各種の予後因子を検討した。【結果】28 例のうち、Survivin を発現していたのは 9 例であった。H 鎖では G と非 G で発現に差を認めなかったが L 鎖では κ で 11%、 λ で 58% と有意に λ で発現が多かった。Durie-Salmon の stage では stage I で 0%、II で 14%、III で 36% の症例が Survivin 陽性であり、進行例ほど発現例が多かった。予後因子ごとに陽性例の比率をみると Alb>3.7 で 21%、Alb<3.7 で 37%、補正血清 Ca>10.5 で 33%、Ca<10.5 で 19%、 β 2-MG>6.5 で 44%、 β 2-MG<6.5 で 29% の症例が陽性で、いずれも予後不良因子を有する群で発現例が多かった。生存分析では Survivin 陽性群の生存期間中央値は 7.3 ヶ月、陰性群は 9 ヶ月であり、両群に有意差を認めなかった。【結論】Survivin の発現は骨髄腫の進行を反映する。